Google Cloud Next 2026

AI が申請し、人が承認し、IDaaS が守る

Gluegent Flow・Gemini・Gluegent Gate で実現する エージェント時代の業務基盤

2026年7月30日

サイオステクノロジー株式会社
Gluegent Service Line / Head of Partner Alliance　吉岡大介
Cloud Identity Management Service Line / PdM　鈴木祥一

SIOS

© SIOS Technology Inc. All rights Reserved.

自己紹介

吉岡大介（Daisuke Yoshioka）
Head of Partner Alliance
Gluegent Service Line



・国産財務・会計システムベンダー、米国 SaaS型のERPベンダーを経て
　サイオステクノロジーに2011年に入社。
・Gluegentにてソフトバンクなどのパートナー開拓、USのパブリッククラウドの
　アドオンサービスの販売、Google社との協業を担当。
・2016年からLifeKeeper/DataKeeper及びSIOS AppKeeperのクラウドビジネスを推進
・2019年、AppKeeperのグローバル展開のため US SIOS Technologyに出向
・クラウドベンダー、Global SIerとのパートナーシップを担当
・マサチューセッツ州、ボストン（ Maynard）のオフィス勤務
・2023年4月に日本に帰国し、クラウドビジネスをリード

© SIOS Corp. All rights Reserved.

サイオステクノロジーについて

（持株会社）
サイオス株式会社

1997年5月設立
東京証券取引所スタンダード市場（証券コード3744）

（事業会社）
サイオステクノロジー株式会社

（米国事業会社）
SIOS Technology Corp.

事業領域

Solution

- オープンソース インテグレーション
- 統合認証ソリューション
- UX設計・UIデザイン
- OSSサポートサービス

Software (SaaS)

システム障害回避
LifeKeeper

スキャン文書管理
speedoc AI for RICOH

ワークフロー
Gluegent Flow

IDaaS
Gluegent Gate

座席管理
Your Desk

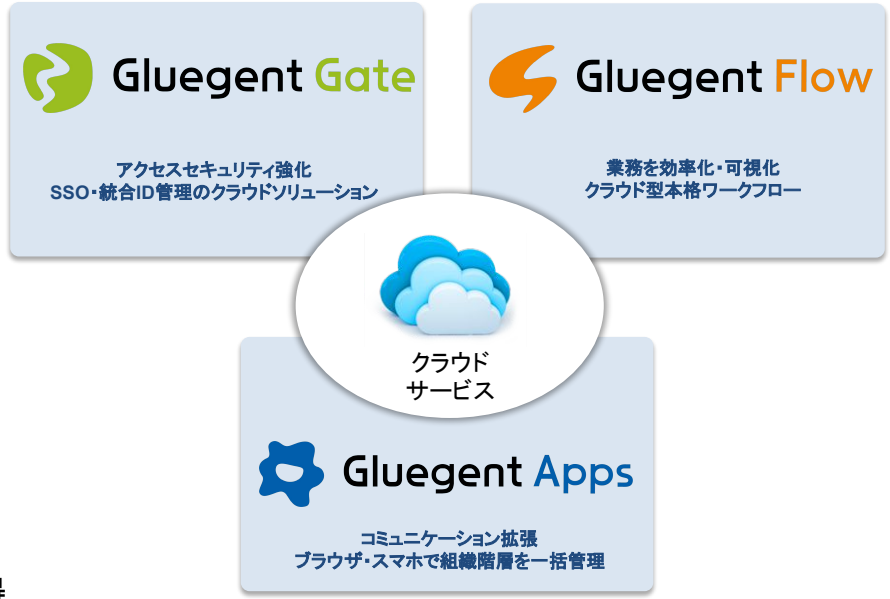
Distributor

Red Hat
EDB
LINBIT

© SIOS Corp. All rights Reserved.

Gluegent シリーズ

- 企業/自治体/文教向けクラウドサービス
- あらゆる企業で簡単導入・運用可能な、
  高機能なサービス
- 初期費用なし：＠100円/月　から利用可能
- 安心のサービス提供
  - 『クラウド・コンシェルジュ』によるサポート提供と、
    無停止での月次アップデート提供
  - クラウドセキュリティの国際規格 ISO/IEC27017:2015 認証を取得



© SIOS Technology Inc. All rights Reserved.

Google Workspace の利用を最大化するアドオンサービス

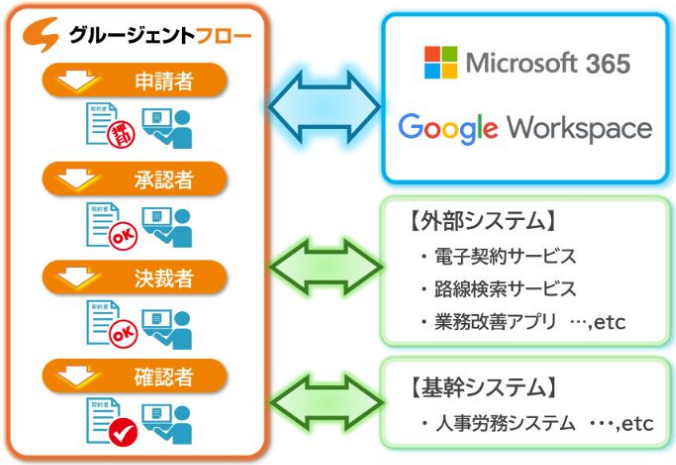
SIOS

1

Google Workspace　Microsoft 365

グルージェントフロー

稟議書や申請書をかんたんに電子化できるシステム。
GWS / M365 との連携、また外部システムとの
データ連携で業務のスピードアップに貢献できます。



Gluegent Apps

2

Google Workspace　Microsoft 365

Gluegent Apps 共有アドレス帳

組織情報を一元管理し、アドレス情報検索を効率化。
組織階層で表示可能なメールアドレス帳です。

3

Google Workspace

Gluegent Apps グループスケジューラ

Googleカレンダーをチームで活用するためのツール。
部署やチームのメンバーの予定をひと目で確認できます。

4

Google Workspace

Gluegent Gadgets

GWSにパーツ（ガジェット）として、埋め込むだけで
組織内のさまざまなタイプの伝達事項を一元化できます。

© SIOS Technology Inc. All rights Reserved.

グルージェントフロー とは

BOXIL SaaS AWARD
大企業部門 & 中小企業部門 No.1 ※2

IT トレンド
Good Product バッジ受賞 ※1

総務省後援
第18回 ASPICクラウドアワード 2024
クラウドワークフローシステム
Gluegent Flow
支援業務系ASP・SaaS部門
準グランプリ 受賞

BOXIL SaaS AWARD 2023 部門1位 導入事例セクション

BOXIL SaaS AWARD 2024 部門1位 導入事例セクション

High Performer 殿堂入り
ワークフローシステム部門
Gluegent Flow

BOXIL SaaS AWARD Autumn 2025
グルージェントフロー
ワークフローシステム部門
Good Service Autumn 2025
サポートの品質 No.1 Autumn 2025
使いやすさ No.1 Autumn 2025
機能満足度 No.1 Autumn 2025
カスタマイズ性 No.1 Autumn 2025
サービスの安定性 No.1 Autumn 2025
営業担当の印象 No.1 Autumn 2025
料金の妥当性 No.1 Autumn 2025
初期設定の容易さ No.1 Autumn 2025

Microsoft 365/Google Workspace連携ワークフロー
クラウド型ワークフローとして19期連続、累計63冠



参考: ワークフロー比較サイト「 ワクフィット 」

© SIOS Technology Inc. All rights reserved.

Google Workspaceとの連携がスムーズ

Google Workspace との連携

Google Workspace

グルージェントフロー

1 Google グループ
アカウント連携
認証利用
アカウントを利用

2 Google ドライブ
主な自動処理連携
添付ファイル
自動保存など

3 Google ドキュメント
スプレッドシート
入力項目選択肢の
マスターデータとして
利用など

4 Gmail
確認や承認の
自動通知・催促など

グルージェントフロー

GWSとの
連携ユースケース

グルージェントフロー

Googleカレンダーの URLを
カスタムラベルのスクリプトを使って生成。
来訪者管理 / 会議室予約といった
来訪者管理として
活用できます。



承認・決裁されたデータを、スプレッドシートに
自動処理で出力。　出力されたデータをマスター
データとして、新たな別の申請書の項目として
活用することができます。



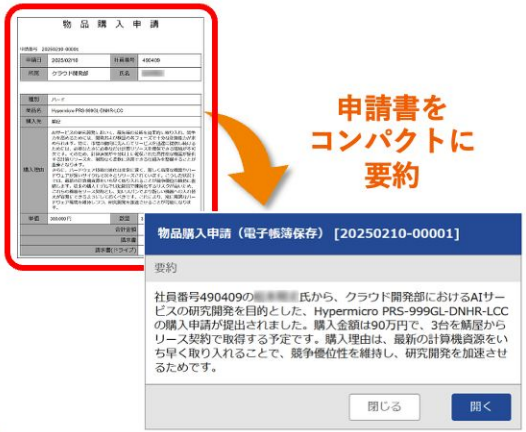
© SIOS Technology Inc. All rights Reserved.

グルージェントフローとGemini

優先度の高い承認データの見極めや、どの申請フォームで申請すべきか等、
申請業務における処理や判断を、生成AI（ Gemini ）がきめ細やかにサポート＆アシストします。

1 ： タスク要約

一覧表の画面で、各申請データを開くことなく、生成AIによる申請内容の要約文が確認できます。優先順位の判断や決裁の時間の短縮が見込めます。



2 ： スマートモデル検索

申請したい内容を入力すると、該当のモデル（申請フォームと承認経路）の候補を理由と共に提示。社内問い合わせ等の工数が削減できます。



3 ： スクリプト自動生成

入力した条件による経路の分岐や項目の表示・非表示設定など、実現したいことを文章で入力するだけで自動でスクリプトを生成。コピー＆ペーストで設定できます。



© SIOS Technology Inc. All rights Reserved.

AI エージェント利用による
ワークフロー申請の自動化



グルージェントフロー

© SIOS Technology, Inc. All rights Reserved.

AI による社内申請業務の効率化

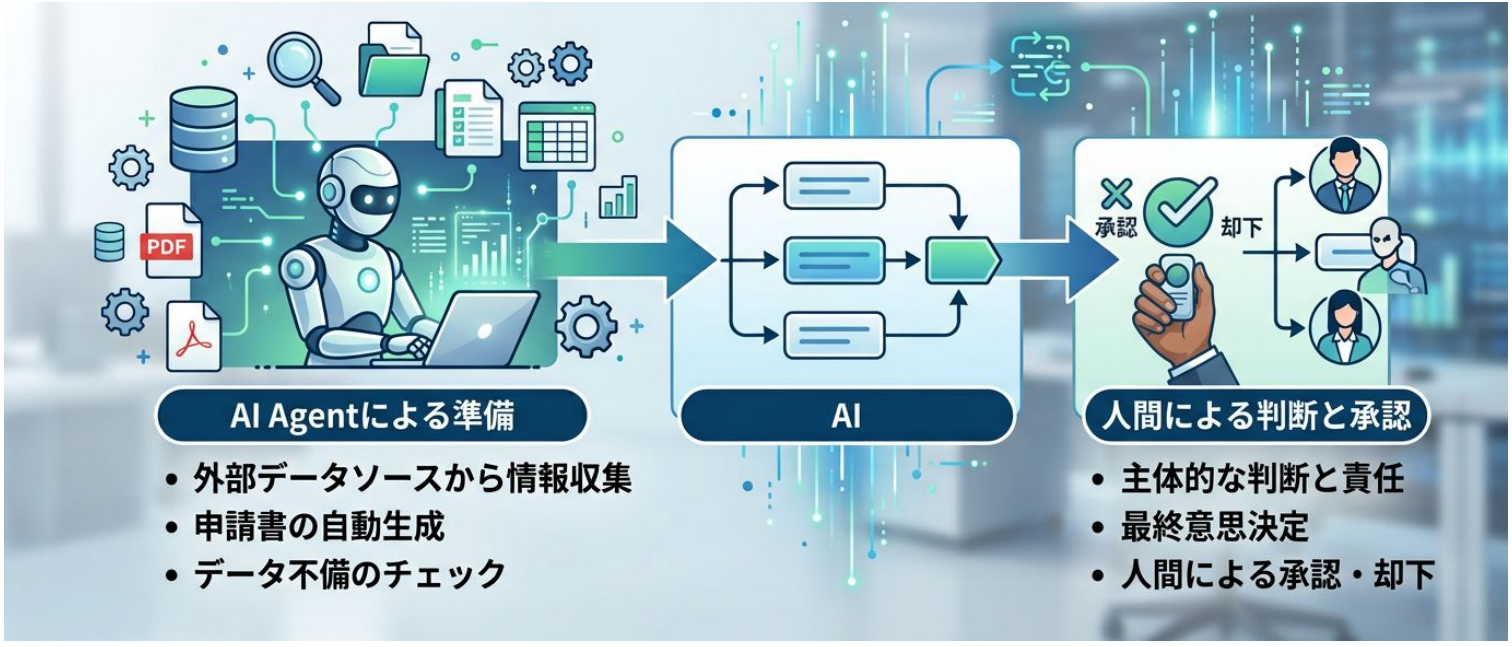
AI による申請・承認の業務を自動化するには、申請起票や申請データの準備などは、AI Agent による自動化を推進するべき。



© SIOS Technology Inc. All rights Reserved.

最終承認は人間が処理

しかし、『承認』は人間が主体的に判断して責任をもって処理すべき。

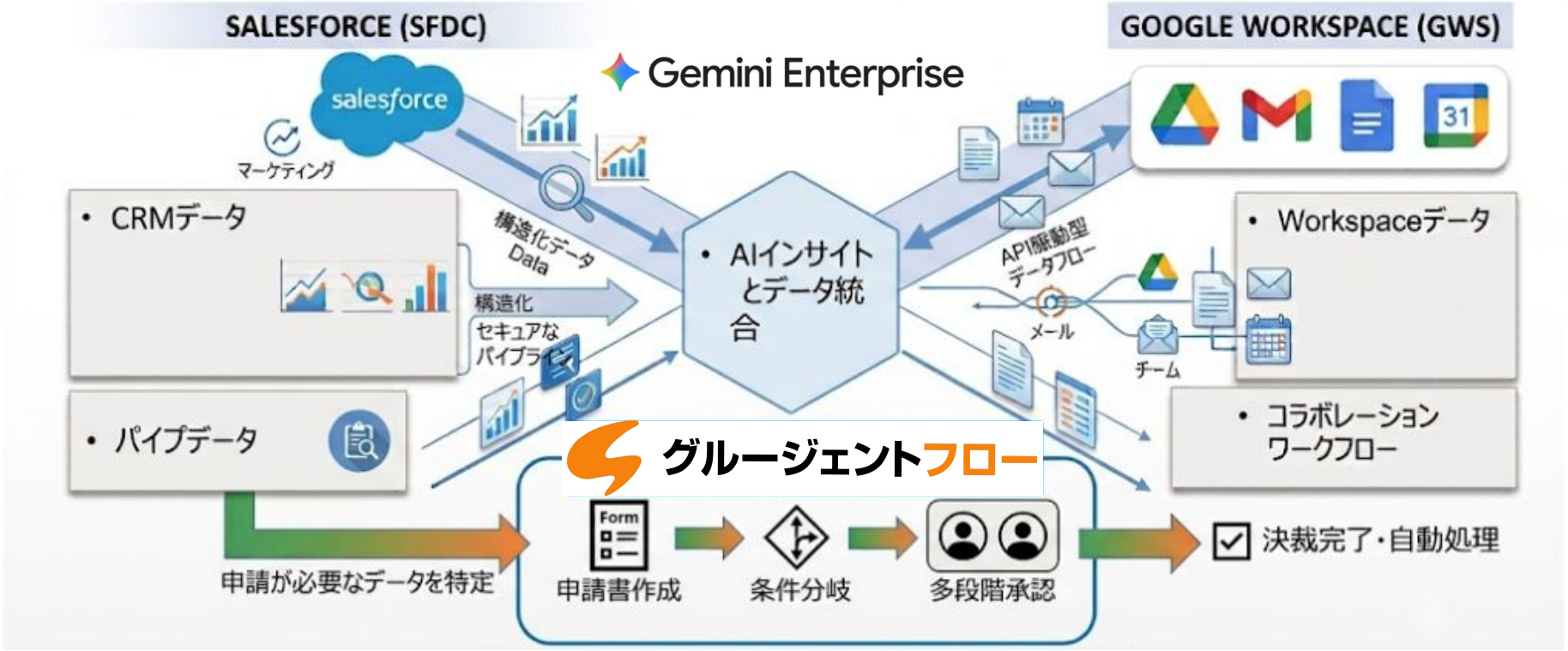


© SIOS Technology Inc. All rights Reserved.

グルージェントフロー＆Gemini Enterprise

SIOS

社内で利用しているシステムとグルージェントフローをGemini Enterpriseを接続し、申請に必要な情報を自動申請（Coming Soon）



© SIOS Technology Inc. All rights Reserved.

具体的な動作例：フライト遅延時の例外申請ケース

イレギュラー検知

航空会社から「**フライトが天候悪化で急遽欠航。翌日の振替便に振替され、追加宿泊費が必要**」という旨のメール（Gmail）をGeminiが自動検知します。

背景＆規程の照合

カレンダーから「明日午前中の重要会議」の存在を確認。さらにDrive内の「**出張旅費規程」を参照**し、災害・天候不順による追加宿泊が特例措置の対象内であるかを自動分析します。

最適な行動の下書き

特例宿泊の承認申請フォーマットを呼び出し、「なぜこの申請が必要か」という客観的な客観事実と遅延証明メールを元に、適切な承認申請理由書（下書き）を自動で作成します。

レコメンド・承認

ユーザーには「フライト欠航に伴う追加宿泊申請書」のドラフトと「**承認をリクエストしますか？」のボタンが表示**されます。ユーザーは内容を確認し、1タップで申請処理が完了します。









© SIOS Technology Inc. All rights Reserved.

具体的な動作例

領域	業務例	AIエージェントによる提案例
財務・経理	請求、支払い、経費精算、 売掛金管理	**収納代行業務の異常値検出**：支払い明細を分析し、前月や前年同月比で異常な支出（例: 10万円が120万円に）を検出。**「この支払いは異常ではないか？経理部長にメールで確認を促しますか？」**と提案し、承認が得られればグルージェントフローで支払い申請をキック。
営業・ マーケティング	見積もり、契約管理、 案件管理	**特例見積もり・契約チェック**：メールでやり取りされた特例情報を見積もり書（Spreadsheet）とSalesforceのデータと照合し、「この見積もりは特例条件が含まれているため、承認前に法務部門に確認申請を流しますか？」と提案。 Salesforce連携が弱いワークフローは グルージェントフローで補完。
情報システム	社内ヘルプデスク、資産管理、アクセス権申請	**社内問い合わせの自動応対・対応推奨**：Slack等の問い合わせ内容を分析し、Geminiが即座に回答（Chatbot）。 回答が難しい場合は、適切な担当者にエスカレーション を推奨し、承認が必要な申請はグルージェントフローに連携。

© SIOS Technology Inc. All rights Reserved.

AIエージェント時代の業務基盤



Gluegent Gate

© SIOS Technology, Inc. All rights Reserved.

『Gluegent Gate』とは？

Gluegent Gate は、コンピュータリソースの利用に必要となる 認証基盤（SSO、多要素認証）に加え、IDライフサイクル管理、グループ /グローバルでの 統合ID管理などの機能を提供するクラウドサービス



各種システム・サービスに対する、場所・人・端末での**認証管理**と**統合ID管理**

© SIOS Technology Inc. All rights Reserved.

これまでとこれから

2008年8月からサービス提供を開始❗ 17年以上の実績❗ ❗

～2007年 | 2008年～ | ～2026年

オンプレミス型 グループウェア → クラウド型 グループウェア → SaaS・IaaS・DaaS → DX・ZeroTrust

Garoon（サイボウズ） / Google Apps / G Suite / Office 365 / Google Cloud / AI Agent & Supply Chain

2008年8月から提供を開始❗

Gluegent Gate	Google Apps に対するアクセス制御・ID管理サービス	クラウドサービスに対するSSO・ID管理サービス	IDaaS として認証・認可、ID管理機能を強化
Gluegent Flow	Google Apps と連携動作するワークフロー	各種クラウドサービスと連携・動作するワークフローとして機能拡張・強化	
Gluegent Apps	Google Apps / G Suite / Google Workspace などに対する付帯サービスとして組織アドレス帳・スケジューラ		

© SIOS Technology Inc. All rights Reserved.

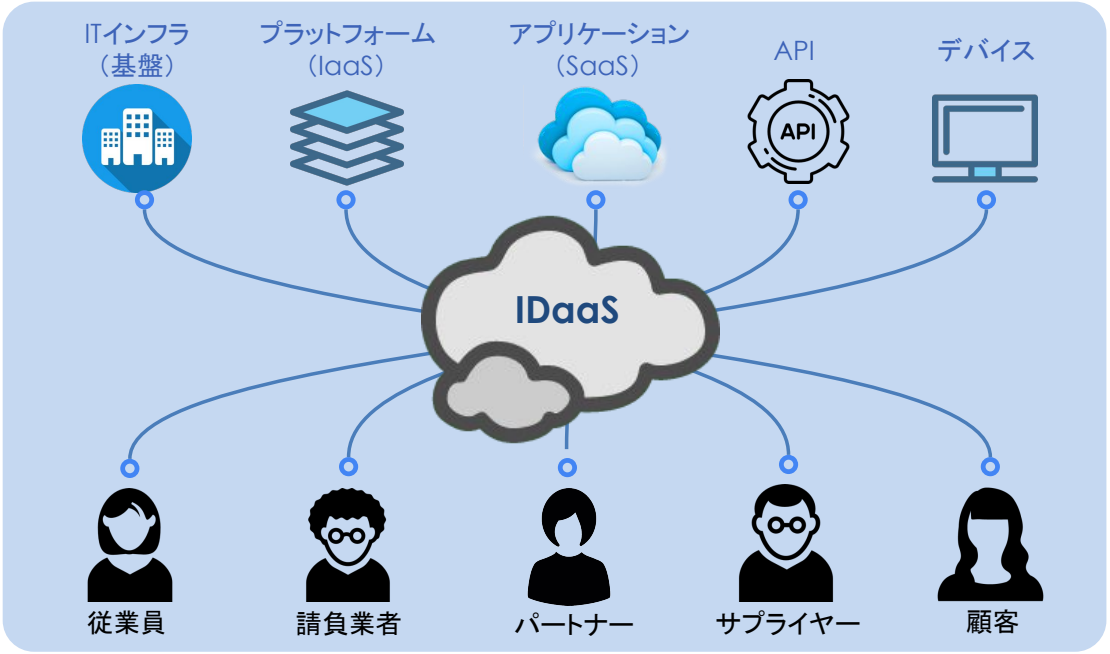
ゼロトラストの中核 IDaaS の重要性が増大

IDaaS = IDentity as a Service は、コンピュータリソースの利用に必要となる認証（ SSO、多要素認証）に加え、IDプロビジョニングやディレクトリ連携、グループ /グローバルでのID管理などの機能を提供するクラウドサービス。

IDaaS が必要となる理由：

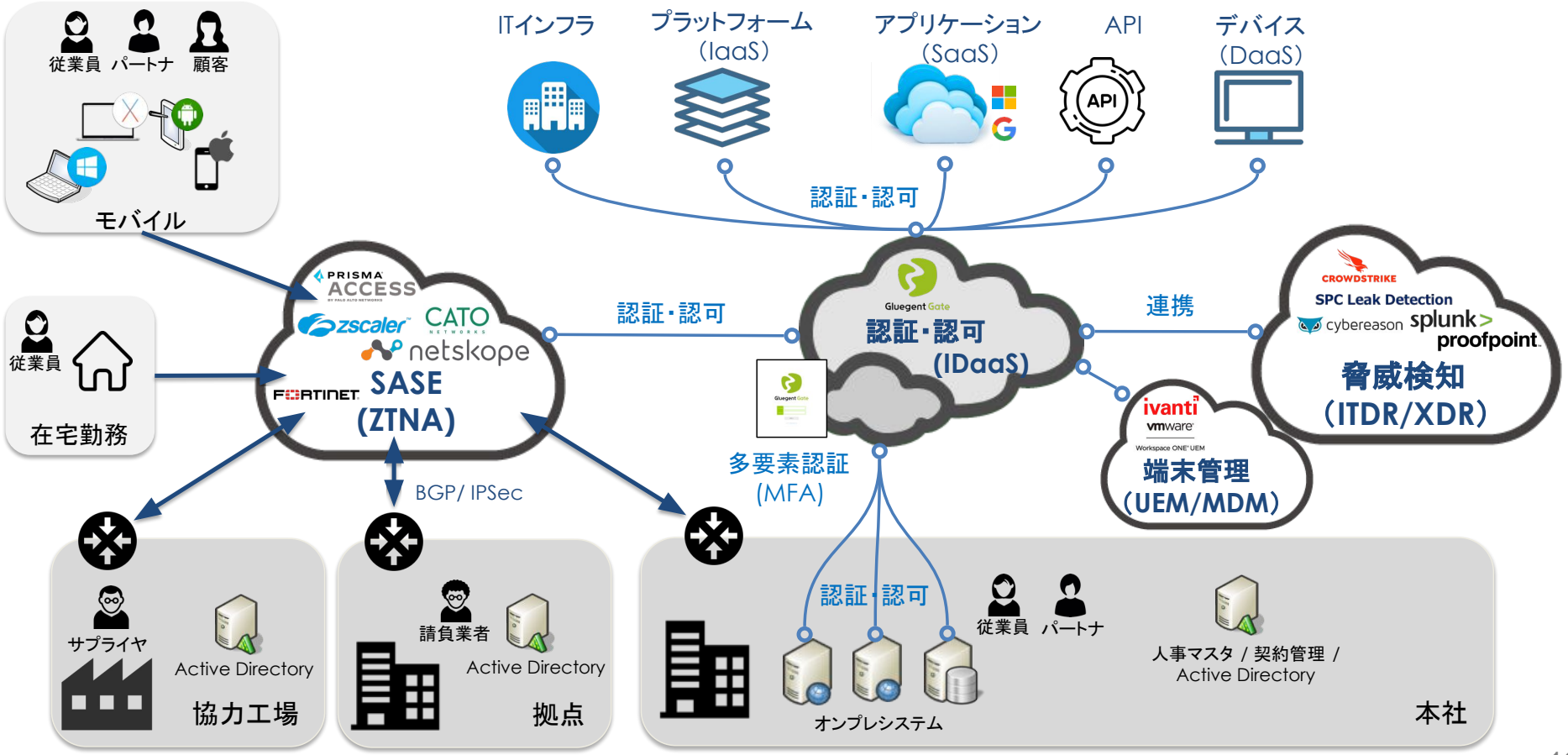
- 働き方の変化に対応（セキュリティ）
- 増え続けるクラウドアプリケーション
- グループ・グローバル、M&A などの組織対応

IDaaS ≒「いつでも」「誰でも」「何とでも」接続できる



© SIOS Technology Inc. All rights Reserved.

新しいセキュリティモデル：ゼロトラスト

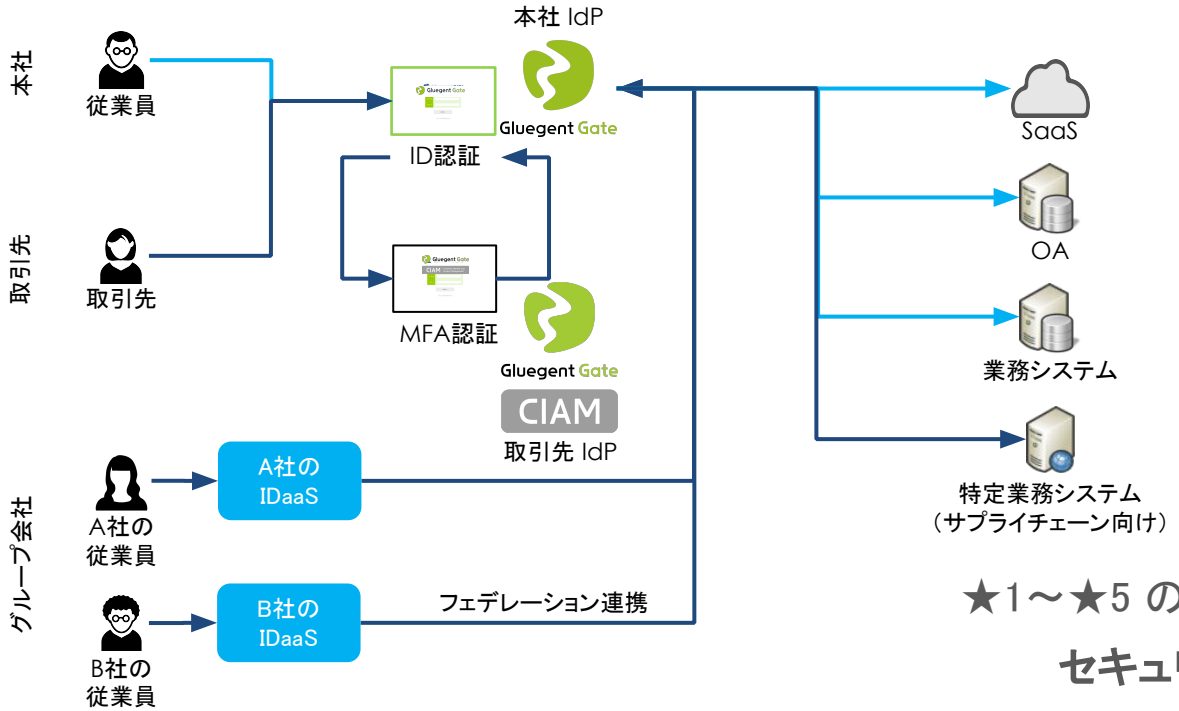


© SIOS Technology Inc. All rights Reserved.

サプライチェーン認証強化モデル（ SCS評価制度）

2027年（令和9年）、日本全体が “セキュリティ格付け” 時代へ

サプライチェーン認証強化構成



経産省・内閣官房

SCS評価制度

（2026年3月 方針公表）

★1～★5 の5段階でセキュリティ対策を評価

セキュリティが取引条件になる時代へ

© SIOS Technology Inc. All rights Reserved.

AI エージェントとは？　定義とメリット

定義

推論・計画・記憶

人間のように考え、計画し、記憶する

複数ステップの先読み

先の展開を読み、自律的に行動

システム横断で活用

様々なソフトウェア・システムと連携

人間の監督下で動作

ユーザーの管理下で安全に実行

もたらす価値

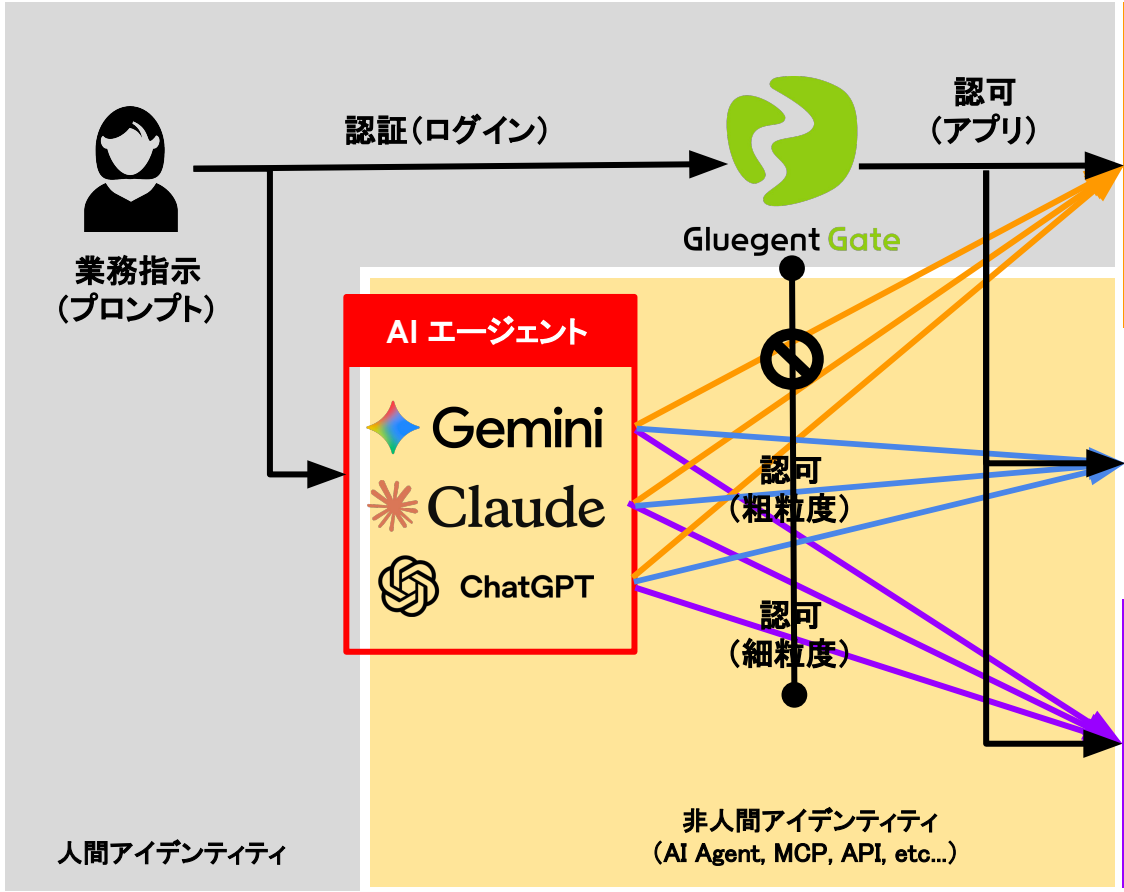
- サイロ化されたツールを横断して情報収集・整理
- 業務プロセスを自律的かつ柔軟に自動化
- スキル・人材ギャップを埋め付加価値を創出

業務効率化 ／ コスト削減 ／ 意思決定の迅速化 ／ 顧客体験の向上 ／ 新規ビジネス創出 ／ 競争力強化 など

出典：Google I/O 2024 基調講演（Sundar Pichai, 2024/5/14）における AI エージェントの定義・ベネフィット説明に基づき作成

© SIOS Technology Inc. All rights Reserved.

AI エージェント時代の業務基盤



トランザクション型 SaaS

Human-in-the-loop

申請・承認などのトランザクションの自動化は非実行・制限。人間承認を基本とする。申請条件などによる、業務支援レベルまでの自動化。

Gluegent Flow

オブジェクト型 SaaS

ファイルなどオブジェクト単位での、参照・編集・共有レベルの粗粒度の認可制御。

box　Canva

構造化データ型 SaaS

レコード・フィールドなど属性単位での、細粒度の認可制御。

Google Big Query　salesforce

snowflake　servicenow

© SIOS Technology Inc. All rights Reserved.

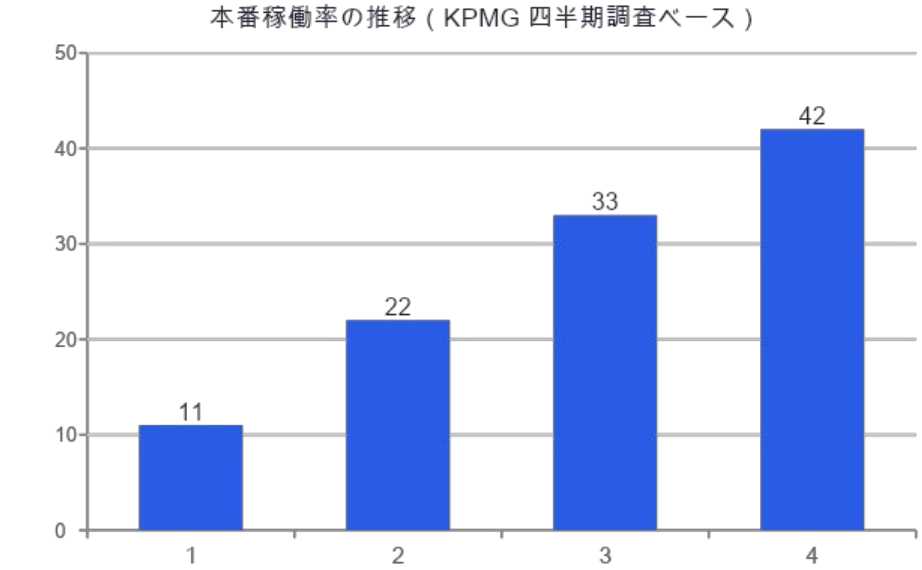
AI エージェントは“検証”から“本番”へ

米大企業で AI エージェントを「本番稼働中」と回答した割合

42%

1年前は 11% ― 四半期ごとにほぼ倍増

スマートフォン普及期を超えるスピード



出典：KPMG 米国大企業 四半期パルス調査（AI Japan Index, 2026年4月確認）。Q2値は補間表示 <https://ai-japan-index.com/ai-agent-adoption/>

© SIOS Technology Inc. All rights Reserved.

市場も予測も、同じ方向を指している

78億ドル

2026年 AIエージェント市場規模

前年比 +50% 成長

40%

2026年末までに AI エージェントを
組み込む企業アプリの割合（Gartner 予測）

2025年は 5% 未満

526億ドル

2030年 市場規模予測

CAGR 46.3%

“導入するかどうか”の議論は終わりつつある。論点は“どう安全に運用するか”へ。

出典：MarketsandMarkets／Grand View Research 市場推計、Gartner 予測（2026年時点の公表値・報道より）。
https://www.hexabase.com/column/ai-agent-platform-comparison-2026

© SIOS Technology Inc. All rights Reserved.

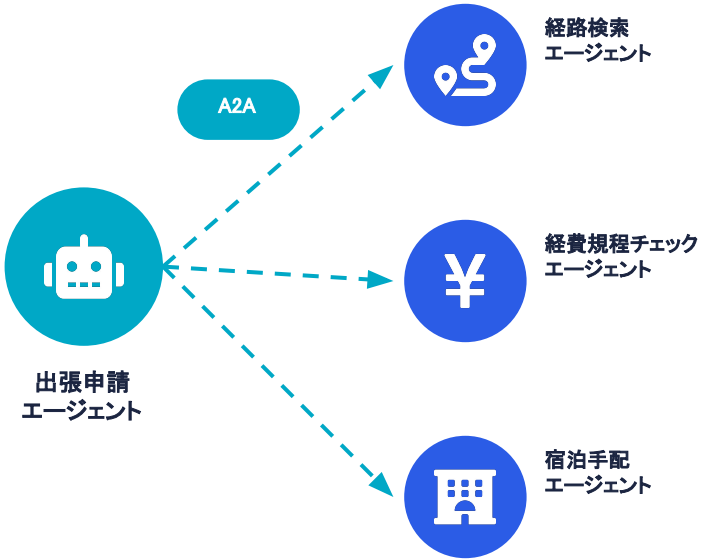
AI エージェントは、こう“働く”：出張申請の例



フォーム入力に悩む時代の終わり – ただし、このエージェントは“何に・どこまで”アクセスしている？

© SIOS Technology Inc. All rights Reserved.

エージェントは“1体”では働かない



A2A（Agent2Agent）プロトコル

- 2025年4月 Google が発表 → 6月 Linux Foundation へ移管
- 1年で 150 以上の組織が支持を表明
- Google / Microsoft / AWS の各プラットフォームに統合
- 金融・保険・サプライチェーン等で本番運用が開始
- Agent Card（能力・接続方法のメタデータ）で相互発見

エージェント A が B に仕事を頼むとき、B は“誰の権限”で動くのか？

出典：Linux Foundation プレスリリース（2025年6月／2026年4月）、A2A Project 公開情報
<https://www.linuxfoundation.org/press/linux-foundation-launches-the-agent2agent-protocol-project-to-enable-secure-intelligent-communication-between-ai-agents>
<https://www.linuxfoundation.org/press/a2a-protocol-surpasses-150-organizations-lands-in-major-cloud-platforms-and-sees-enterprise-production-use-in-first-year>

© SIOS Technology Inc. All rights Reserved.

導入は進む。ガバナンスは追いついていない

78% → 14%

78% の企業がパイロットを保有する一方、
本番スケール到達は 14% のみ

2026年3月・企業技術リーダー650名調査

23%

エージェント ID について正式な全社戦略を
持つ組織の割合

Cloud Security Alliance 調査

50%超

セキュリティ監視・ログなしで稼働している
エージェントの割合

Gravitee 2026年調査

76%

管理外の AI（シャドー AI）を抱える
組織の割合

Gravitee 2026年調査

出典：2026年3月・企業技術リーダー650名調査／Cloud Security Alliance 調査／Gravitee 2026年調査（Uravation 記事にて集約引用）<https://uravation.com/media/ai-agent-production-reality-2026/>

© SIOS Technology Inc. All rights Reserved.

エージェント時代のアイデンティティ：3つの層で捉える

人間 ↔ エージェント

誰が指示し、誰が結果に責任を持つか

委譲と責任の起点

エージェント ↔ エージェント

Agent Card による相互発見・タスク委譲・メッセージ交換

A2A プロトコル

エージェント ↔ ツール / データ

業務システム・データへ触れる接点（ツール呼び出し）

MCP

現在地

認証（AuthN）は、仕様化が進んだ

認可（AuthZ）の設計は、各企業に委ねられている

A2A v1.0.1 の公式拡張にも、ガバナンスを扱うものはまだ存在しない

つないでいいか・どこまでか ― それを決めるのは、あなたの会社の ID 基盤

© SIOS Technology Inc. All rights Reserved.

なぜ従来の IAM では足りないのか

非人間 ID（NHI）は人間ユーザーの

25〜50倍

従来 IAM の前提：人間の ID

- 入社 → 異動 → 退職のライフサイクル
- イベント駆動の権限見直し・定期棚卸し
- 1人 = 1 ID、権限は比較的静的

AI エージェントの現実

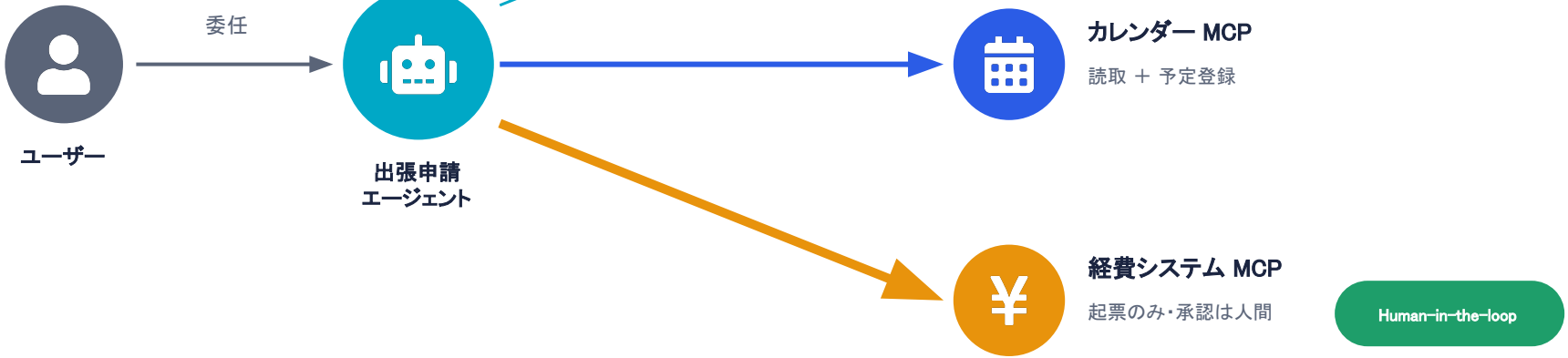
- 実行時に動的に権限を取得
- サブエージェントを生成し、行動が連鎖
- 数十のシステムをまたいで API を呼ぶ
- 短命・大量 — 入退社イベントを発しない

出典：KuppingerCole Leadership Compass NHI 2026、Gartner Top Cybersecurity Trends 2026、Forrester 予測 <https://www.csoonline.com/article/4194548/agentic-ai-identity-a-6-stage-maturity-model-for-non-human-identities.html>
<https://labs.cloudsecurityalliance.org/research/csa-whitepaper-nonhuman-identity-agentic-ai-governance-v1-cs/>

© SIOS Technology Inc. All rights Reserved.

接続先ごとに“権限の太さ”を変える

✗ アンチパターン
全連携先に効く“万能トークン”1枚 →
1箇所の侵害で全システムが影響範囲に



線の太さ＝許される操作の範囲。接続先ごとにトークンとスコープを分離し、侵害時の影響範囲（blast radius）を最小化する

© SIOS Technology Inc. All rights Reserved.

認可粒度の 3 段階：標準仕様で実装する

1 接続先（MCP サーバー）単位

トークンのオーディエンスを接続先ごとに限定

OAuth 2.1 ＋ RFC 8707 Resource Indicators

「経費用トークンは、経費システムにしか効かない」

2 操作（ツール）単位

スコープ設計で操作を制限し、危険な操作は人間の承認へ

スコープ設計 ＋ Human-in-the-loop

「読取は自動、送信・削除・支払は承認必須」→ 承認ワークフローが重要

3 リソース単位

関係ベースの細粒度認可（ReBAC）で対象データを限定

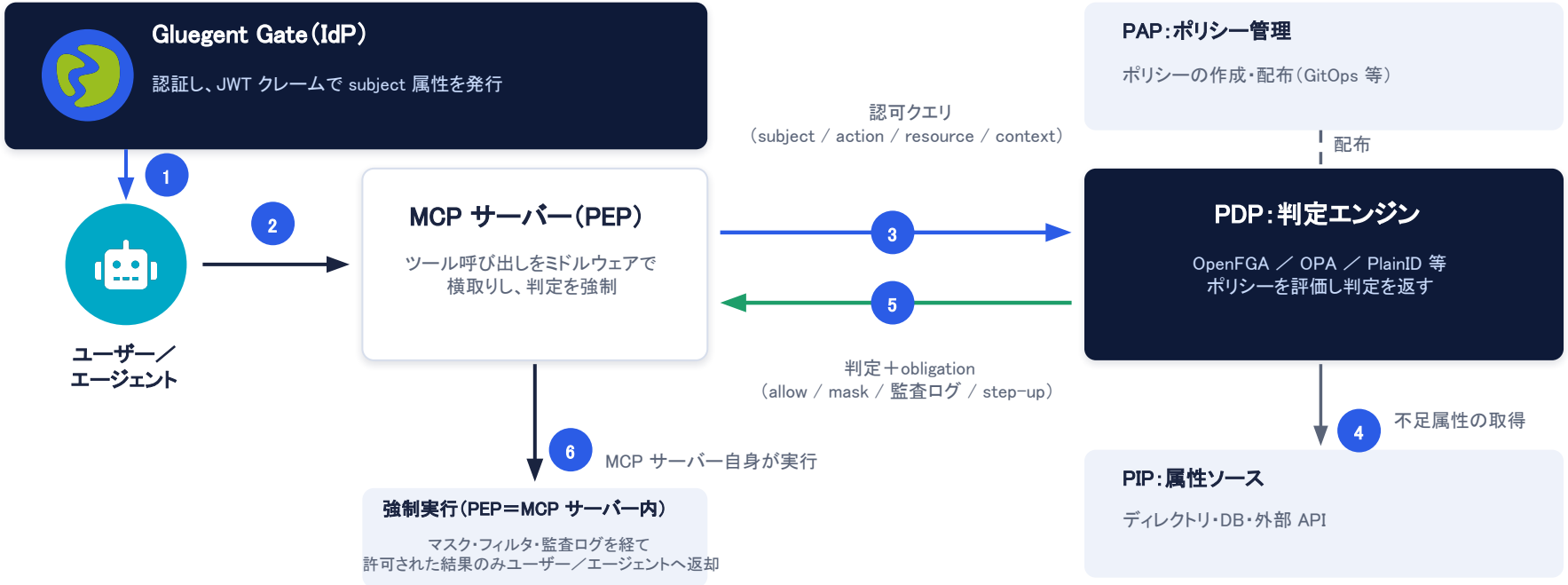
OpenFGA ／ AuthZEN（OpenID Foundation）

「営業部のエージェントは、営業部のフォルダのみ」

口頭で覚えて帰る 2 原則：「接続先ごとにトークンを分ける」「危険な操作は人間に戻す」

© SIOS Technology Inc. All rights Reserved.

認可判定のあるべきアーキテクチャ：Gluegent Gate と PDP の連携



Gate の役割：subject 属性の発行源 ／ PIP への属性供給（部門・役職・グループ）／ step-up 認証の受け皿 ― PDP が要求する “燃料” を高品質に供給する

※ 本ページは MCP のベースライン仕様である OAuth 2.1（リソースサーバー認証）を前提としています。P13 の OAuth 2.0 Token Exchange（RFC 8693, 委任時のトークン変換）とは別レイヤーです。MCP サーバーの OAuth 2.1 実装率は 8.5%（2026年5月時点）― PDP 連携（③⑤）はその上のさらに先進的な任意レイヤーです。<https://baeseokjae.github.io/posts/mcp-oauth-authentication-guide-2026/>

© SIOS Technology Inc. All rights Reserved.

非人間 ID ガバナンス：持ち帰る 4 要件

① 台帳化

エージェント ID の棚卸しと所有者（オーナー）の明確化。「誰も知らない ID」をなくす

② 委譲の明示化

人間 ID の使い回しをやめ、Token Exchange で「誰の代理か」を証跡化

③ 最小権限 ＋ JIT

接続先・操作・リソースの 3 粒度で絞り、必要な時だけ付与（Just-in-Time）

④ 監査ログ

委譲チェーンを含む行動連鎖の追跡。A2A・MCP をまたぐ横断ログ

経営幹部の半数以上が AI 関連インシデント・ヒヤリハットを既に経験：危機の後にガバナンスを定義するのでは遅い

出典：Okta「AI Agents at Work 2026」グローバル調査 <https://www.okta.com/ja-jp/newsroom/articles/ai-agents-at-work-2026/>

© SIOS Technology Inc. All rights Reserved.

エージェントは、もはや一社では完結しない

複数ベンダー併存が前提

Copilot・Gemini・Agentforce 等を同時運用

AvePoint, 2026年

22%

本番デプロイの 22% が 3 エージェント以上を協調

2026年 業界調査

7〜8%

統合されたクロスエージェント・ガバナンスを持つ組織

2026年前半 業界調査

75%超

特定ベンダーへの依存リスクを懸念する経営層

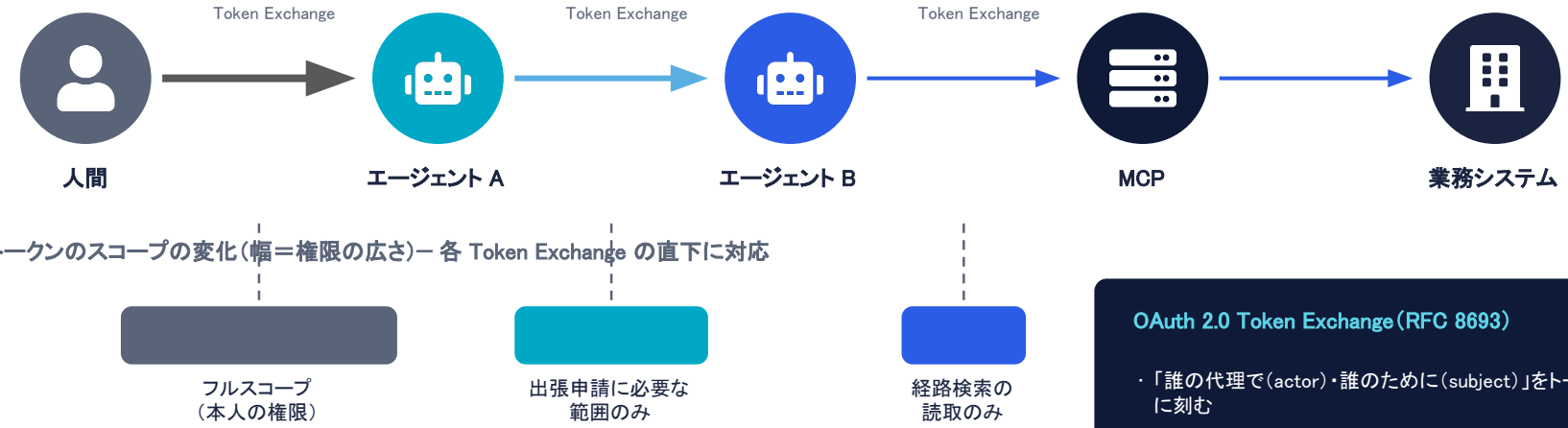
AvePoint, 2026年

各社のガバナンス機能は、自社エコシステムの中までしか届かない ― ベンダーをまたぐ層がない

出典：AvePoint「Avoid AI Vendor Lock-In」、2026年 業界調査（Multi-Agent Orchestration / Cross-Agent Governance）。
https://www.avepoint.com/blog/manage/ai-vendor-lock-in-multi-model-strategy

© SIOS Technology Inc. All rights Reserved.

委譲チェーンと ID の伝搬：権限は“狭くなる”方向にのみ



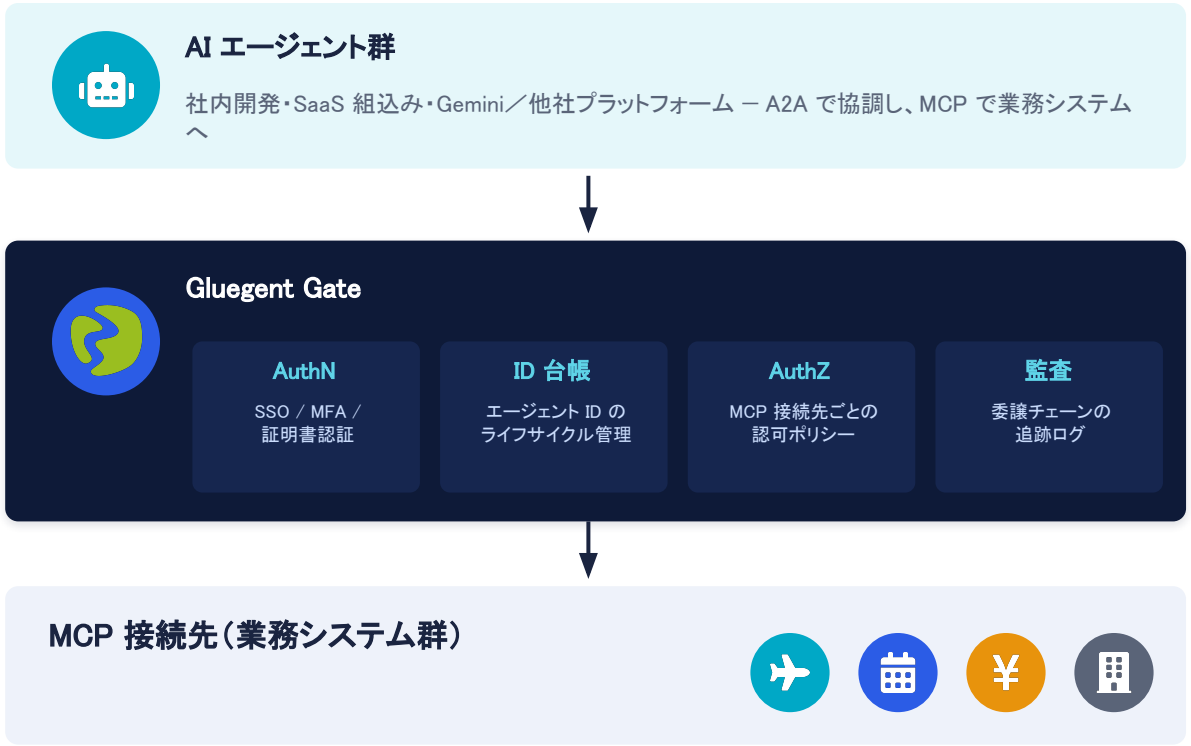
OAuth 2.0 Token Exchange（RFC 8693）

- 「誰の代理で（actor）・誰のために（subject）」をトークンに刻む
- 委譲のたびにスコープは縮小のみ（attenuation）
- 元の人間の権限を超える昇格を構造的に防ぐ

委譲チェーン全体が追跡できて初めて、「このデータ削除は誰の指示に遡るのか」に答えられる（監査要件）

© SIOS Technology Inc. All rights Reserved.

Gluegent Gate：人間の ID 基盤を、非人間 ID へ



差別化ポイント

単一ベンダーの中ではなく、ベンダーを横断して。

Gemini のエージェントも、他社のエージェントも、自社開発のエージェントも同じ人物の代理として、一貫したポリシーで見る。

SSO／MFA で複数の SaaS を横断してきた実績を、エージェントの認証・認可・監査にも延長するのが Gluegent Gate の役割です。

© SIOS Technology Inc. All rights Reserved.

エージェントは、新しい“従業員”である

採用（導入）の話は、皆がしている。今日お伝えしたのは“労務管理”の話です。





Agent Card ＝ 名刺

能力と連絡先の提示（A2A）



MCP スコープ ＝ 職務権限規程

何をしてよいかの範囲



Token Exchange ＝ 委任状

誰の代理かの証明（RFC 8693）



監査ログ ＝ 業務日報

何をしたかの記録

ブースにて： Gluegent Gate のデモ ／ MCP・A2A 時代の認可設計のご相談を承ります

ブース番号・二次元コード


SIOS